

NEWS RELEASE



健康未来、創ります

日本新薬

2024年3月12日

日本新薬株式会社

広報部

各位

日本における貧血患者の実態を明らかにした研究結果が学術誌に掲載されました

日本新薬株式会社（本社：京都市南区、代表取締役社長：中井 亨、以下「当社」）は、貧血患者の実態に関して調査したミリマン・インクとの共同研究（以下「本研究」）の結果が学術誌（Journal of Medical Economics）に掲載されたことをお知らせします。

日本において、これまで貧血が社会へ及ぼす影響について十分な報告がないという背景から、当社は「日本における貧血の割合、治療状況、また貧血患者における医療費、生活の質（QOL）、生産性損失」を明らかにすることを目的として本研究を実施しました。

本研究では、2020年の健康診断でヘモグロビン値の測定記録を有する、成人554,798名（男性：51.5%、女性：48.5%）のリアルワールドデータを解析しました。

その結果、日本人における貧血の割合は15.1%（推定貧血患者数：15,908,744人）であり、そのうち55.3%が未診断、85.3%が無治療であることが明らかとなりました。また併存疾患等の影響を含むものの、貧血の方における年間損失は、貧血でない方と比較して、医療費3兆3,200億円、QOL 13万8,000QALY、生産性1兆1,300億円と推定されました。

本研究は、医薬専門家の学校法人順天堂 順天堂大学医学部産婦人科学講座 竹田 純 准教授、国立大学法人 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 医療疫学分野 山本 洋介 教授がアドバイザーを務めました。論文のタイトルは「Prevalence, treatment status, medical costs, quality of life, and productivity loss in Japanese adult patients with anemia: a real-world database study」¹⁾であり、以下の Web サイトから無料で閲覧が可能です。

<https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/13696998.2023.2271752>

当社は、本研究を通じて「貧血」が社会的課題としても認識され、貧血に対する意識を見つめなおす機会になることを願っています。

貧血について

貧血は、赤血球の数やその中のヘモグロビン濃度が正常より低い状態であり、臓器や組織に酸素を運ぶヘモグロビンが不足することで起こります²⁾。症状は多岐に渡り、疲れやすさ、めまいや立ちくらみ、頭痛、動悸、息切れ、顔面蒼白、作業量の減少などがあげられます²⁾³⁾。最近の研究では、貧血と精神疾患（不安障害、うつ病、睡眠障害）との関連⁴⁾⁵⁾、妊娠中および産後の貧血では早産、低出生体重児、産後うつとの関連などが示唆されています⁶⁾⁷⁾。

ミリマン・インクについて

ミリマンは、アクチュアリー、リスク管理、その関連分野のテクノロジーおよびデータソリューションのサービスを展開する世界最大の独立系コンサルティング会社の一つです。ミリマンのコンサルティングならびに先進的分析に関わる専門領域は、ヘルスケア、損害保険、生命保険、金融サービスおよび従業員福利厚生分野を網羅しています。

論文の補足情報

データベース	レセプトデータ（約 500 万人※）、健康診断データ、健康管理アプリから取得した質問票のデータ、加入者台帳データが含まれています。※2022 年 1 月（研究開始）時点
貧血の定義	健康診断データによるヘモグロビン値で定義しています（男性: ≤13g/dL、女性: ≤12g/dL）。
QOL	健康管理アプリから任意で質問票のデータを登録した人に限定して、EuroQol 5-Dimension (EQ-5D) を用いて評価しています。
生産性	健康管理アプリから任意で質問票のデータを登録した人に限定して、Work Productivity and Activity Impairment Questionnaire (WPAI) を用いて評価しています。
QALY	QALY (quality-adjusted life year: 質調整生存年) とは、疾病負荷の評価方法として一般的な手法であり、EQ-5D に基づき算出しております。
研究の限界	医療費、QOL、生産性の差は、貧血の方と貧血でない方の平均値の差であり、貧血によるものか、それ以外の要因があるかどうかは不明です。また、鉄剤による治療について、OTC 薬やサプリメントの使用は含まれていません。

引用文献

1. Takeshima T, et al. J Med Econ. 2023 Jan-Dec;26(1):1386-1397.
2. World Health Organization (WHO). “Anaemia”. 2023-5-1.
<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/anaemia>
3. 日本鉄バイオサイエンス学会治療指針作成委員会編. 鉄剤の適正使用による貧血治療指針改訂 [第 3 版]. 響文社, 2015.
4. Vulser H, et al. Acta Psychiatr Scand. 2016 Aug;134(2):150-60.
5. Lee HS et al. BMC Psychiatry. 2020 May;20(1):216.
6. Black RE, et al. Lancet. 2013 Aug 3;382(9890):427-451.
7. Kang SY et al. J Psychiatr Res. 2020;122:88-96.

以上